

イヌシデ



春に咲く雄花



10月に熟した果穂



幹の白い縞模様が特徴で、園内で幹周り1m以上の大木が190本もあります。4～5月の新芽の時期にケムシのような花が垂れ下がって咲きます。秋には園内が黄色く染まりとてもきれいです。

1

ケヤキ



ケヤキは武蔵野の風景を代表する樹木のひとつです。材木としても優秀で高級な家具材として使われています。園内には幹周り1mを超える大木が14本あり、なかには3m以上のものもあります。大空に向かってのびのびと枝を広げた雄大な樹形をみることができます。

5

ユリノキ



5～6月に咲く花



ユリノキの実とタネ



左側の葉と並べてください

ユリノキは5～6月にチューリップに似た花を咲かせます。葉の形も特徴的で職人が着る半纏のような形で、かつてはハンテンボクといわれていました。園内には、幹周り1mを超える大木が7本あります。

6

イロハモミジ



春に咲く小さな赤い花



プロペラ形のタネ

イロハモミジは、ヤマモミジと並ぶ日本を代表するモミジです。園内には幹周り1mを超える大木のイロハモミジが29本もあり、秋には葉が美しく紅葉します。

2



番号の場所でご覧いただけます

日ごとに寒さ増し、秋から冬へと移り変わる季節です。井の頭自然文化園では多くの落葉樹の葉が色づき紅葉が見頃です。

今回紹介した樹種はMAPの場所に、紹介しきれなかった樹種も看板を設置しています。

モミジバスズカケノキ

街路樹として多く植えられているプラタナスの仲間です。この木は、樹皮が不規則に剥がれてさまざまな色のパッチワーク状になるのが大きな特徴です。秋には葉が黄色く色づきます。



3

イチョウ

イチョウの仲間は、恐竜時代後期に栄えた植物でしたが、現存するものはイチョウのみで化石植物ともいわれています。雌雄異株で秋にはきれいに黄葉します。材としても優れていて、まな板に使われます。



4

ムクノキ

ムクノキはケヤキと同じニレ科の植物で大変大きく育ちます。園内にも幹周り1m以上の大木が9本もあります。葉の表面がざらざらでかつては木材の表面仕上げにも使われていました。秋には実が黒く熟して野鳥が多く集まります。



9

ラクウショウ



ラクウショウの気根



このラクウショウは、落葉する針葉樹として水生物園の美しい景観をかたちづくっています。園内には幹周り1m以上の大木が44本あります。この木は、湿地でも成長できるように根の一部を地上に出して呼吸する木根（きこん）が見られるのが特徴です。

8

メタセコイヤ



メタセコイヤ ラクウショウ

メタセコイヤは幹がまっすぐに伸び、円錐形の樹形をした落葉針葉樹です。ラクウショウと共に水生物園の景観を構成する美しい木です。メタセコイヤの枝は、左右が同じ位置に葉がつく対生です。ラクウショウは枝が互い違いに出る互生の違で、簡単に見分けることができます。

7



花ごよみ

2016年
11月23日
160号

発行
公財)東京動物園協会
井の頭自然文化園